

http://www

全国 R・J グレード部会情報誌

かしめ

2011年 7月 1日
3号

発行：全国 R・J グレード部会連絡会

発行責任者：松枝 建次

事務局：東京鉄構工業協同組合

住所：東京都中央区八丁堀 3-9-5

電話：03(5566)1595 FAX:03(5566)1597 E-mail:jimukyoku@tsfa.jp

震災により被災された皆様にお見舞い申し上げます。

東日本大震災により被災された、全国鉄構工業協会構成員会社・社員・ご家族及び地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。震災発生後四ヶ月を経りましたが、いまだ多くの方々が避難所生活を余儀なくされ、心身ともに過酷な状況が続いておられることと存じます。被災地の皆様の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

全国R・Jグレード部会連絡会 会長 松枝 建次

東日本大地震のさなかに第8回総会を開催

全国RJ部会連絡協議会

講演会を前にした2時46分、宮城県沖を震源地とする東日本大地震が発生。マグニチュードは観測史上最大の9で、宮城県内で震度7を記録し講習会場のホテルも大きく揺れました。これにより、東日本からの参加者は地元の安否の確認を優先し、講習会は予定より30分遅れて開催されました。

演題「R・Jの未来」 西国光(鋼構造出版相談役)が講演

冒頭、「厳しい時代が長期化し、非常に疲れきっているなかで、勇気づける話はなかなかなく、カンフル剤もない」としながらも、「足元の不景気だけを見て、悲観的になっていてもしかたがない。今こそ自分の企業を見つめ直して、改善点を見つけ立て直しを図る時ではないか」と強調しました。

その趣旨に沿い、全構協の設立から約30年を振り返りながら、各活動の内容から草創期(1973~82年 資格制度誕生の時期)、成熟期(1983~93年 バブル経済下、鉄骨価格急伸など絶頂の時代)、混迷・再生期(1994~現在 新たな時代へ向けて)の3つの時代に分け、それぞれのキーワードを示すとともに、鉄骨造の特性を説明しながら、キーワードから特性要因図を作り、新しい時代へ向けて対応策の策定方法を論じました。

キーワードは、適正な受注価格の確保、会社経営手法の確立、組合活動の展開、情報化利用、品質管理体制の確立、経営モラルの向上、加工方法の自動化と省力化、人材の育成の8つ。

3号の内容

1. 全国 R・J グレード部会総会の報告

2. 尾崎製作所 訪問

総 会

加盟全組合が参加。参加組合は10組合、約50名。その内、北海道機械工業会鉄骨部会（1名）と茨城県鉄構工業協同組合（3名）がオブザーバー参加しました。

※総会は地震の速報を逐次報告しながら進行

議 長・松枝建次 グレード部会会長 司 会・三田 孝 副会長

会長挨拶 松枝建次（全国R・Jグレード部会連絡協議会会長）

苦しい時代こそRJ会に意義がある。鉄骨建築物は9割が5階以下。トン数にして約40トン。まさしく我々がこなしていくべき規模だ。だが、M指定が圧倒的だ。我々RJは質が悪いと思われている。「常に動く、常に勉強、常に活動」を言っている。すぐに結果はでない。こつこつと活動することが大切。これで「9割の土俵」に参加できるようにしていきたい。この会を「動く会」にしたい。

来賓あいさつ 加藤卓郎氏（全構協副会長）

RJはグレードを上げるということもさることながら、今の体制を整えることが大切だろう。その一つがパソコンの活用だが、単に書類生理というだけではなく、いろいろな機能を活用すると相当な武器になる。この充実が必要だ。

耐震補強は現状、Mが70%、Rが20%を受注している。これを着実に受注していくことが大切だ。また、地域のHやMと連携を密にする活動も重要だ。HやMと相談ができる関係を築いておくのは役に立つ。

神奈川県では人材の応募や募集活動をネットを利用して展開している。廃業する企業の経営者が従業員の行先を心配していたが、この活動によって1カ月ほどで全員が再就職できた事例もでてきている。現在は、県内だけだが、県外への展開も考えて行きたい。

中国人から、管理者が欲しいと言われたことがある。日本の技術力の流出となり、複雑な思いがある。技術力はHやMだけではなく、RやJもそのなかの一つだ。グレードは関係なく、それぞれが日本の技術力だ。

フリーディスカッション

総会に先立つ役員会で決定した内容

同会でアンケート調査した内容を報告するとともに、オブザーバー参加者からも意見を聴いた。

アンケート結果

・近況(受注量)

Rグレードは稼働率40～70%。もちろん持っていない企業は30%を下回る。非常に低い。

同(受注単価)

全国的にはHやMも悪い。決起大会の限界価格を守れるかどうか。守らないのは誰が守らないのか。限界価格で受注できている企業はほとんどないだろう。

同(金物、階段、手摺り、鉄骨架台の単価)

R以下は鉄骨少ないため、金物などの加工がかなり多くなってきている。だが、それも次第に

少なくなっているようだ。

同(雇用調整助成金)

活用は約15%

以上に関し、北海道と茨城、大阪が地域の近況を補足した。

・経営安定と営業活動及び金融

経営安定

誰が値段を崩したか。世界経済や日本経済の状況などいろいろあろうが、直接的要因は、業界の主力を占める上位グレード企業の受注競争ではないか。これが改まらなければ上昇は難しい。

営業活動

現役で工場で溶接など作業している経営者は約30%

なかなか営業活動がしにくい実態が数字で明らか。

金融

銀行は貸し渋っている。不良債権がまた増加中のようだ。迫力と熱意と誠意がないと貸してくれない。

全構協への要望

グレード部会を全構協の組織の一つとして認めて欲しい。

懇親会

進行・三田副会長

懇親会は来賓参加の大阪府鉄構建設業協同組合の元古典雄理事長があいさつと乾杯からスタートしました。

「100年に一度の大不況。2008年のリーマンショックから、鉄骨需要は激減し、昨年が暦年で420万トン。今年も同レベルと見込まれている。このくらいの需要が普通になってきた。

日本の景気はゆるやかに回復していると言われるが、海外へ進出している企業だけで、国内産業、とくに我々建設業は厳しい。赤字をどれだけ積んで仕事を取るかという現状。この状況で将来性は持てない。この状況で、どうやって生き抜くか厳しい問題。今後、厳しい決断や選択が迫られるだろう。今までのように仕事を取り合いするという状態ではなくなってきた。そんなことをやっている場合じゃないのが分かってきた。そういう思いから不況突破大会が開催された。ここで決まった限界価格やスローガンを守っていこう。あの価格は標準的な200トン物件で、RJには不満もあろう。要は、ドンブリ勘定じゃなく、各項目でいくらかかるということをアピールし、少しでも金額を上げていきたいということ。辛抱強く、客のいいなりにならないようにやっていこう。

「かしめ」はいいことをしている。我々も見習わないといけない。同じ境遇のなかでの関係。小回りが利き、客に密着する利点、過当競争に巻き込まれないのがRJの強みだ。」力強く挨拶。

また、オブザーバー参加の北海道、茨城の2組合の代表が自己紹介し、懇親を深めました。

中締めは、杉本 豊 部会相談役の「今は情報を得ることが大切。世の中は地デジに代わり、液晶に代わる。工場も大きく変わることが必要な時代だ。」で締めました。

大阪R会の副会長 株式会社 尾崎製作所

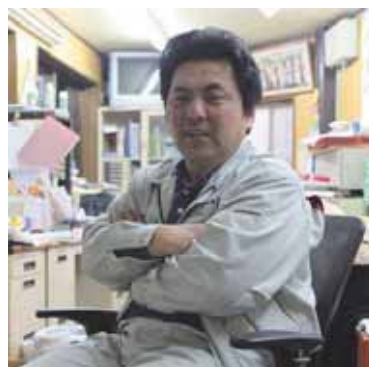
硬くて丸くて大きいもの、なあに？

ガガガ・・・カーン・・・シャー・・・どこからともなく鉄を加工する音が聞こえてきます。

月州中学校の西側。中・小規模の工場が並ぶその中に尾崎製作所があります。



尾崎製作所



尾崎正弘社長

業務内容の中に“プラネタリウム鉄骨製作”と。ええっ？！プラネタリウムを作っているの？ここで？！さて、尾崎製作所とプラネタリウムとの関係はいかに。

尾崎製作所2代目社長の尾崎正弘さんは昭和34年生まれ。てっきり堺っ子と思いきや、意外にも、大阪は堀江生まれの堀江育ち。会社へはご自宅から通っていらっしゃいます。「先代が堀江で金物屋を興しましたが、大阪市内では工場ができへんからといって堺に移ってきました。45年くらいになると思います。」

社長は大学の工学部を卒業された後、他の会社でサラリーマンを経験します。採石プラントの仕事で、黒部に3年間赴任。現場はトロッコ列車しか通ってないような山奥。「設計・管理・運転まで全部やっていました。」しかも社員なのに「飯場みたいな所に6人押し込められて。」それはそれは過酷な仕事だったそうです。その後港湾の仕事でインド(ムンバイ)へ行き、1年後に帰国。その後尾崎製作所に入社、現在に至ります。

尾崎製作所を支える仕事の3本柱は、『各種鉄骨製作』、『濁水処理プラント製作』、『プラネタリウム鉄骨製作』。それらを現場で組み立てる仕事もしています。



(写真は、ダム用濁水処理プラントの水槽を製作しているところ)

2階にある事務所の窓から工場の様子を見渡すことができます。取材中も製作現場ではバチバチと火花が散り、鉄を加工する大きな音が響きます。その音に負けじと次第に質問する声も大きくなり…。

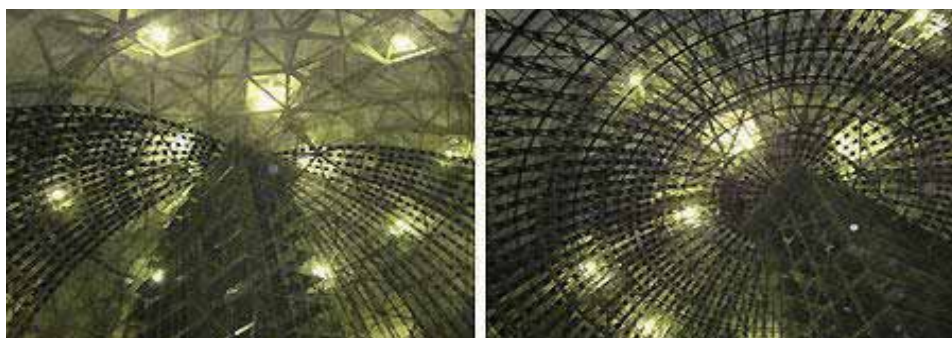
うちでやったのは100位ちやうかなあ。手がけたプラネタリウムの数です。

関西圏であれば、地元のソフィア・堺をはじめとして、大阪市立科学館、ドリーム21（東大阪市）文化パーク城陽、伊丹市立こども文化科学館、姫路科学館…。北は釧路市こども遊学館、南は鹿児島市立博物館まで。海外は上海にも。

で、今一番“旬”の物件はというと、「国内最大級となる名古屋市科学館新館のプラネタリウム」
(2011年3月19日オープン)。



■プラネタリウム骨組の設置作業(1)



■プラネタリウム骨組の設置作業(2)

名古屋市科学館のプラネタリウムの場合、設置されるプラネタリウムは直径35メートル。尾崎製作所は、完全球体の上部半円に骨組をセッティングし、そこにパネルを取り付けるという仕事を請負いました。

同時に同社では7分の1スケール(直径5メートル)というミニサイズのプラネタリウムも製作しています。これは過去最小径のお仕事だったそう。見たい！ここにありますか？「いやいや、試写用として現地の別室に設置してあります。」一般の人は見ることのできない幻のミニプラネなんですね。



■ 名古屋市科学館

日本にあるプラネタリウムメーカーは現在3社(五藤光学、コニカミノルタプラネタリウム、MEGASTAR)。尾崎製作所はコニカミノルタプラネタリウム(本社:大阪市西区)と取引をしています。同社から尾崎製作所への発注はほぼ100%といえますから、信頼度は抜群。

そもそもコニカミノルタプラネタリウムと尾崎製作所の接点はどこにあったのでしょうか。「当時、ミノルタカメラの技術センター※が塚(塚区大仙西町)にありまして。」

(※1960年代からプラネタリウムの研究をしていたらしい)

ある時、先代のところに関係者から、プラネタリウムの仕事をやってみないかという話が。先代がベースから築き上げた仕事を2代目社長が継承。プラネタリウムの骨組工事は30年の歴史をもつまでとなりました。

仕事の打ち合わせには社長自ら出席します。新しく挑戦することも多々。「先方の担当者とお話でもないこうでもないと話し合いながら進めています。」移動式の小さいプラネタリウムも作りました。作ったら終わりではありません。設置したけどうまくいかないから来てくれと言われれば飛んで行く…。

真摯にお仕事をされていますとそれなりにご苦労もあると思いますが?「苦労と思ったことはないねえ。でもドームの中はむっちゃくちゃ暑くて。名古屋の現場のときは、中に空気が入るようにファンが付いている服を職人に用意しました。そんなことを竹中工務店に評価してもらい、表彰もされました。」

夢は? 「会社を大きくしたいとは思わへんけど、ちゃんと仕事をした分だけのお金が入ってくるようにはしたいね。お金を払ってくださる方に喜んでもらえるものを作るということは心に決めています。指名で仕事ができるような会社になれば一番ええんとちゃうかな。」

ものづくりの信念は? 「請負ったからには、ケツを割らずに最後まで仕事をやり遂げること。たとえ予算が苦しくても。いや、あとで、どないかしてやとは言いますけど(笑)。追加変更ばかりでも、だいたいはいやあないあと言いながらやってます(笑)。」

そうそう、プラネタリウムが完成した後、上映を観に行くことはあるのでしょうか？
「子どもの頃は四ツ橋にあった大阪市立電気科学館によく行ってましたけど、今は仕事以外では行けませんね。」お忙しいですからね。「でも名古屋市科学館はええらしいから行ってみたい。一般の試写会に、俺も入れてくれ～！って頼んだんやけどアカン！て(笑)。試運転はなんぼでも見れるんですけどね(笑)」

なんでも名古屋のプラネはとっても贅沢な作りになっていて、座席はゆったり、左右に30度回転するとか。社長は座っていた事務椅子をくるくる回して説明してくれました。ほんと、わくわくしますよね！

スカイツリータウンのプラネタリウムの製作も

今後は『コニカミノルタ“満天” in Sunshine City の大改修工事』、つづいてこれまた話題の『コニカミノルタ“天空” in 東京スカイツリータウン』などのお仕事が決まっているそうです。いやはや、社長はことなげに列挙されますが、最先端スポットの連発にこちらの方が興奮してきました。スカイツリーの物件に関しては骨組をこちらの工場で作し、8月に現地に持って行き、組み立てをするそうですよ！！

こんなに身近な所にプラネタリウムを作っている会社があるなんて素敵。プラネタリウムの見方が確実に変わりました。夢のあるお仕事がこれからもずっと続いていきますように。

■株式会社尾崎製作所 堺市堺区神南辺町1丁10-2 TEL.072-233-0736

*この記事は 堺・南大阪の情報誌「つーる・ど・堺」雑記帳003に掲載された記事を使用させていただきました。 <http://toursakai.jp/>

編集後記

3.11大震災のさなかの第8回総会でした。総会には北海道や、被災地である茨城県からもオブザーバーで参加していただきました。大変ありがとうございました。

震災から3カ月余りたちましたが、現地の復興はあまり進んでいません。被災者の皆さんの苦難を考えると心苦しくなります。原発事故さえなければ復興に全力で取り組むことができるのに……。被災の情報が刻々と報告される中での講演をしていただきました鋼構造ジャーナルの相談役の西さんにも感謝申し上げます。

尾崎製作所の尾崎社長の夢、モノづくりの信念には感動しました。また、この記事の使用承諾していただいた情報誌『ツール・ド・堺』の発行人に感謝申し上げます。

全国R・Jグレード部会情報誌 [かしめ]もがんばります。今後も全国の元気なR・Jグレードを紹介していきます。皆様の投稿をお待ちしています。

編集人 加藤哲夫